

3 雨害

(1) 雨害の実態

キクは雨によって6月から9月まではハガレセンチュウが広がり、雨によって上葉に被害が広がる。特に長雨ではその程度が大きく、著しい葉枯れとなり商品化できなくなる。

(2) 雨害の様相

ア 生育期と雨害の影響

長雨被害は低温(冷害)や水害(湿害)と関係が深く、生育が劣り、徒長軟弱となって耐病性が劣り、収穫期が遅れ、花色葉色が劣り水揚げも悪くなって、ほとんどの花きに被害がある。日照不足によって花飛びや異常花となりやすい。とくに生育後期の被害が大きい。

イ 災害を大きくする条件

連作地では被害が大きく、低温地では水害、湿害も併発して回復が難しくなる。日照不足に対しては、ビニールハウスはガラス室より被害が大きく、露地栽培では一般の管理作業の遅れが商品化に影響してくる。

(3) 雨害の対策

ア キクの長雨対策

幼苗の場合は、光線不足と肥料の流亡、根の活動不足などによって芽立ちが劣り、軟弱徒長となり耐病性が劣る。対策としては、加里成分を多く含んだ肥料の追肥と薬剤散布を行い、倒伏しやすくなるので予備支柱やネット張りを早く行う。

白サビ病の発生しやすい状態になっているので、その防除も行う。

収穫に近いキクは、花中に水分が入り花腐病(ボトリチス病)が発生する。薬剤散布によって表面の菌は防げるが、中に浸入した菌に対しては十分な効果がないため、雨除け施設による栽培が最も望ましいが、応急対策としては若返りを行い、逆さにつるして水滴を落とし、乾燥した作業室で切口を水につけ、3-5分咲にして出荷する。

近年、収穫時の雨及びつゆ対策として乾燥機が普及しつつある。花卉及び葉の品質向上に効果が高いと思われる。

白サビ病の防除は定期的に行うが、長雨の場合は散布の機会がない。雨中の散布でも幾分効果があるので、雨足の弱い時に散布して病気の広がりを防ぐようにする。

イ カーネーションの長雨対策

光線不足による茎の軟弱化と同化作用の減少が最も大きい被害で、施設下で栽培するので直接雨水の被害はない。軟弱化と光線不足のため立枯病、葉枯病の被害があり、分枝性と伸長速度が劣る。対策としては、光線透過をよくするために、ガラス面の内側のカビやほこりを拭き取り、ビニール張りでは新しい透過量の多いビニールに張り替えるなどのほか、石灰、加里、マグネシウムなどを追肥して順調な生育を保つよう管理する。